第1回委員会における主な御意見の趣旨

産業・働く場・クリエイティブ

- 大学をはじめ京都には多様な資源がある中で、それらと周辺部の駅をつなぎ拠点を形成できれば、新たな活動の高まりや雇用の創出等にもつながるのではないか。
- 京都駅周辺に都心をもう一つつくり、さらにそこでクリエイティブな活動が可視化されると拠点ができてくるのではないか。
- 用途地域のゾーニングだけでなく、仮設的な土地利用の提示や用途規制の緩和など、まちのポテンシャルを引き出す思い切った方策が必要。

人口・住む場所

- 駅が人々の生活の中心になっているか、人口減少の歯止めとなるような拠点となり得ているかという点について、今後の議論の中で着目していきたい。
- 特に周辺部で転出超過となっている状況を踏まえ、土地利用の推移や変化、各地域の既存施設等が機能しているかなどを確認する必要がある。
- 東部や南部の地域中核拠点エリアにおいて若年・子育て層の転出が目立つなど、駅周辺でありながら人口が流出している状況を捉え、議論を進めていくことが大事。
- 若者が京都に愛着を持ち定住してもらうために、雇用面と住環境を整えることが大事。京都は特に住環境が弱い。

近隣市町との関係（京都都市圏）

- 「創造・再生ゾーン」のポテンシャルを引き出すためには、近隣市町との関係を考えていくことが大事。
- 久御山町の「みなくるタウン構想」や向日町駅周辺の開発等、近隣市町は積極的に動いている一方で、京都市においても南部地域等で新たな取組を展開していかないと取り残されてしまう。

戦略的な仕掛け

- 南部は単に市場原理だけではダイナミックな変化は起きない。戦略的に仕掛けを準備する必要がある。
- 仕掛けは大事。待っているだけでは何も起こらない。民間のみで事業を行うには限界があり、行政との連携は非常に重要。

「都市計画マスタープラン」の見直し（R3.9）で拡充した主な方針・施策

第3章 都市の将来像			第4章 都市計画の方針				第5章 方面別指針					
都市構造	新たな視点 〔関連性の高い項目に○〕			土地利用				コンセプト・将来像 〔関連性の高い方面に■〕				
	職住近接・時代の共存	都市圏の強化	暮らしと営み	拡充した主な方針・施策 (括弧は「都市計画マスタープラン」の該当ページ)				北部	都心部	東部	南部	西部
持続可能な都市構造 京都らしさを守り磨く 時代に対応していかす 京都ならではの魅力と都市活力の循環 次世代のための都市環境と都市機能の受皿をつくる	○		○	伝統と最先端技術の融合などクリエイティブ産業を支える拠点の充実 (p.77)				■	■			
	○		○	文化・スタートアップ機能等を持つオフィスの誘導 (p.78)					■			
			○	まちの魅力や強靭性を高める環境整備 (p.79)				■	■	■	■	■
	○		○	身近な生活圏で暮らしを支える多様な機能の充実 (p.83)				■		■	■	■
			○	既存集落の住環境・生活環境や地域資源をいかした地域づくりの核となる機能の充実 (p.86)				■				■
			○	地域資源をいかし新たな価値を創造する拠点整備への支援（「学術文化・交流・創造ゾーン」の形成等） (p.87)				■	■	■	■	■
			○	京都の都市格と地域経済の活性化につながる商業・業務機能の誘導（京都都市圏の中核としての求心力向上） (p.77)					■			
	○			若年・子育て層のニーズに合った居住環境の充実 (p.79)				■		■	■	■
	○			居住地から近くアクセス性の高い働く場の充実 (p.79)				■		■	■	■
			○	市境における都市計画の一体性の向上・相互効果の発揮 (p.79)						■	■	■
○	○		将来的に整備予定の都市基盤の戦略的な活用 (p.80)							■	■	
○			工場の操業環境を維持しつつ、生活利便が整った居住環境の創出 (p.81)							■	■	
		○	高速道路のインターチェンジに近接し、農地など周辺環境とも調和する産業用地の創出 (p.81)							■	■	

特に御意見いただきたい論点

【論点1】
重点的に都市計画上の方策を講じるべきエリアは？

【論点2】
各エリアの都市計画上の課題と対応の方向性は？